2024 年度 学校関係者評価報告

2025 年 3 月 31 日
学校法人南星学園

目次

2024 年度 学校関係者評価報告 0
はじめに 5
1. 学校関係者評価委員の構成 5
2. 学校関係者評価委員による評価方法 5
3. 職員から挙がった意見に対する改善方策
（01）教育理念・目標
課題 1. 6
保護者への周知が十分に行き届いていない現状があり、また、教育理念を十分に理解せずに入学する学生も見受けられます。そのため、学校の教育理念を改めて明確に伝え、学生や保護者に対して継続的に周知を図る必要があると考えます。
（02）学校運営
課題 2.
物価高の影響を考慮し、住宅手当などの福利厚生制度が充実することで、職員の生活を支える環境が整うことが望まれます。
課題 3. 6
県外などからの証明書発行依頼に対応するため、ホームページ上で申請や決済ができる仕組みを導入すれば、事務作業の負担軽減につながり、より効率的な運営が可能になると考えます。
課題 4.
IT 系の学科があるにもかかわらず、業務運営のデジタル化が十分に進んでおらず、DX による業務の効率化も十分に図られていないと感じます。また、DX 化には設備投資が必要と考えられる一方で、具体的な方針が明確でなく、どの程度業務の効率化が進んでいるのかが分かりにくい状況です。
課題 5. 7
職員の不足が業務の負担増加や運営の効率化の遅れに影響を与えていると考えられます。
（03）教育活動
課題 6. 7
人材の募集を行っても応募がないことがあり、特に専門教科の講師や教師の確保が非常に難しい状況です。教員不足が影響していると考えられるため、学校外の方々と積極的に情報交換を行い、より良い人材と巡り合えるよう努める必要があります。
課題 7. 8
学科によって違いを感じる部分があるため、全体のバランスを考慮した取り組みが求めら

れます。また、円滑な運営のためには、教員同士の積極的なコミュニケーションも重要であると考えます。

(04) 学修成果

課題 8. 8

卒業生の動向については、新聞などで活躍が紹介されることはあるものの、それ以外の状況はほとんど把握できていないのが現状です。より詳細な追跡調査や情報収集の仕組みが求められます。

課題 9. 8

資格試験制度の変更に伴い、対応に試行錯誤している部分があり、適切な対応策を検討する必要があると考えます。

課題 10. 9

今年は、留学生本科における資格取得率が伸びなかったように感じました。指導にあたる先生方や担任からの声掛けが非常に効果的なため、改めて資格取得のメリットを学生に伝え、学習意欲の向上につなげていければと考えています。

課題 11. 9

退学に関しては、入学生の基礎学力の問題や、入学動機が目標大学への 3 年次編入のみの学生がいることが課題となっています。そのため、学科の専門教科への関心が二の次になり、退学につながるケースもあります。今後、どのように取り組むべきか検討する必要があります。

課題 12. 9

サイテクは資格取得に対する指導が厳しくないという意見がありました。保護者の中には、学費をかけて入学させている家庭もあるため、学生の学習意欲を高めるためにも、目標とする資格の設定が必要であると考えます。

課題 13. 10

サイテクは資格取得に対する指導が厳しくないという意見がありました。保護者の中には、学費をかけて入学させている家庭もあるため、学生の学習意欲を高めるためにも、目標とする資格の設定が必要であると考えます。

(05) 学生支援

課題 14. 10

卒業生への支援や保護者との連携については、現状十分に確立されておらず、今後の重要な課題として取り組む必要があります。

課題 15. 10

卒業生への支援体制について、具体的な内容が明確でないため、どのような支援が求められているのか把握する必要があります。もし具体的な要望が挙がっているのであれば、それを共有し、適切な対応を検討したいと考えます。

課題 16. 11

学生の健康管理については、現在の体制では十分とは言えず、特に留学生に関しては体調不良を訴えるケースが多く見受けられます。そのため、病院への送迎や付き添いの回数が増えており、対応に負担がかかっている状況です。今後、より効率的で継続可能な支援体制の整備が求められます。

(06) 教育環境

課題 17. 11

施設に関しては、いくつかの課題が挙がっています。具体的には、実験室の広さが定員に対して十分でないことや、美浜校舎の雨漏り、さらには普天間校舎の階段の老朽化が著しいといった問題があり、早急な対応が求められます。

課題 18. 11

理想とする環境や体制はありますが、現状の制約を考えると、やむを得ない部分もあるのではないかと考えます。

課題 19. 12

火災訓練は毎年実施されていますが、今後は地震や台風などの自然災害への対処訓練も必要ではないかと考えます。また、AED の導入については、緊急時の対応力を高めるためにも、次年度に早急に取り組むべき課題であると考えます。

(07) 学生の受け入れ募集

課題 20. 12

定員の充足率が低い状況が続いており、入学者の確保が喫緊の課題となっています。少子化が進む中、本校の魅力が十分に伝わっていない可能性があるため、広報活動を強化し、出願数を増やすための工夫が求められます。引き続き、効果的な学生募集の取り組みを検討し、入学希望者の増加につなげていく必要があります。

(08) 財務

課題 21. 13

ここ 1～2 年で日本人学生の入学者数が減少しており、その原因を分析する必要があります。さらに、今後の少子化問題に加え、次年度から実施予定の大学授業料免除制度の影響も懸念されます。これらの状況を踏まえ、入学者確保のための新たな対策を講じることが求められます。

(09) 法令等の遵守

課題 22. 13

ガバナンス改革の進捗状況が明確でなく、どこまで改善が進んでいるのか把握しにくい状況です。現時点では、改善された部分もある一方で、引き続き対応が必要な課題も残っていると考えられます。そのため、次年度は早い段階で担当職員を決定し、より一層の改革と改善に努めるべきだと考えます。

(10) 社会貢献・地域貢献

課題 23. 14
学生のボランティア活動の紹介や意識づけを強化したいと考えていますが、奨励や支援を行うためには、予算の確保や職員の負担増加の可能性も考慮する必要があります。そのため、どの範囲まで支援を行うのかについて、職員全員で慎重に検討する必要があると考えます。

（11）国際交流

課題 24. 14
美浜校では、留学生の日本語能力向上に関する具体的な取り組みが十分に行われていない状況です。特に、日本語の読み書き能力の向上が課題と考えられるため、留学生向けの日本語講座を設けることを検討すべきではないでしょうか。

課題 25. 14
留学生の体調管理や事故予防に関して、現状の対応だけでは十分とは言えず、何らかの具体的な対策を講じる必要があると考えます。

4. 学校関係者評価委員の評価及び意見 15

5. 総括 16

はじめに

2024 年度に学校全職員が参加して行った自己評価の結果と、それに基づく改善方策を報告します。自己評価では、職員から 65 件の意見が寄せられました。これらの意見を整理し、同じ内容のものをまとめて 25 件に要約しました。それぞれの要約された意見に対して具体的な改善方策を立案しました。以下、4 名の学校関係者評価委員から頂いた評価と意見についても共有いたします

1. 学校関係者評価委員の構成

本校の設置学科に関連する業界から選ばれた学校関係評価委員は、IT 関連企業から 1 名、建設関連企業から 1 名、科学関連企業から 1 名、そして卒業生から 1 名で構成されています。

2. 学校関係者評価委員による評価方法

自己評価の達成状況と職員から寄せられた意見に対する改善策について、4 段階の評価を受けました。学校関係者評価委員から頂いた評価と意見を参考に、次年度の自己評価と改善方策の実施を進めます。

<改善方策案に対する学校関係者評価>

A・・・・適切

B・・・・ほぼ適切

C・・・・やや不適切

D・・・・不適切

3.　職員から挙がった意見に対する改善方策

(01) 教育理念・目標

課題1. 保護者への周知が十分に行き届いていない現状があり、また、教育理念を十分に理解せずに入学する学生も見受けられます。そのため、学校の教育理念を改めて明確に伝え、学生や保護者に対して継続的に周知を図る必要があると考えます。
改善方策
学期の始まりに実施するオリエンテーションでは、教育理念や目標の説明を充実させ、学生が学校の方針を深く理解できるようにします。また、各教室などにポスターを設置し、日常的に教育理念が目に入る環境を整えます。さらに、保護者向けの説明会で教育理念の説明を組み込み、家庭との連携を強化します。

(02) 学校運営

課題2. 物価高の影響を考慮し、住宅手当などの福利厚生制度が充実することで、職員の生活を支える環境が整うことが望まれます。
改善方策
物価高の影響を受ける中で、職員の生活を支える環境の整備は、教育機関の健全な運営にも直結する重要な課題です。福利厚生制度の充実は、職員の経済的な負担を軽減し、安心して業務に従事できる環境を作る上で欠かせません。未使用有給休暇の買取制度の導入は、職員の生活の安定に寄与すると考えられます。これらの制度について評議委員会や理事会で継続的に議論を重ね、財政的な負担とのバランスを考慮しながら、具体的な支援策の実施を検討していきます。

課題3. 県外などからの証明書発行依頼に対応するため、ホームページ上で申請や決済ができる仕組みを導入すれば、事務作業の負担軽減につながり、より効率的な運営が可能になると考えます。
改善方策

県外からの証明書発行依頼に迅速かつ円滑に対応するため、ホームページ上での申請および決済が可能なシステムの導入を検討します。これにより、来校せずにオンラインで手続きが完結し、申請者の利便性が向上するとともに、事務作業の負担が軽減され、より効率的な業務運営が実現できます。導入にあたっては、既存の事務フローとの整合性を確認しながら、セキュリティ対策を十分に講じたシステムを構築し、円滑な運用を目指します。

課題4. IT 系の学科があるにもかかわらず、業務運営のデジタル化が十分に進んでおらず、DX による業務の効率化も十分に図られていないと感じます。また、DX 化には設備投資が必要と考えられる一方で、具体的な方針が明確でなく、どの程度業務の効率化が進んでいるのかが分かりにくい状況です。
改善方策
現在の業務フローを見直し、デジタル化が可能な業務を洗い出します。その上で、優先度の高い業務から段階的に DX を導入し、効果を測定しながら改善を進めます。 また、DX 化には設備投資が伴うため、財務状況を考慮しながら、補助金や助成金の活用も視野に入れ、コストを抑えつつ最適なシステムを導入します。さらに、DX の推進状況が分かりやすいよう、業務効率化の進捗を可視化し、定期的に職員へ報告することで、全体の理解と協力を得ながら DX 化を加速させていきます。

課題5. 職員の不足が業務の負担増加や運営の効率化の遅れに影響を与えていると考えられます。
改善方策
DX の推進により、単純作業の自動化や効率的な業務運営を実現し、限られた人員でも円滑に業務を遂行できる環境を整えます。

(03) 教育活動

課題6. 人材の募集を行っても応募がないことがあり、特に専門教科の講師や教師の確保が非常に難しい状況です。教員不足が影響していると考えられるため、学校外の方々と積極的に情報交換を行い、より良い人材と巡り合えるよう努める必要があります。
改善方策

業界団体や教育機関との連携を強化し、専門分野の人材と積極的に接点を持つ機会を増やします。また、オンライン授業の導入などを検討し、柔軟な教育体制を整えることで、人材不足の影響を最小限に抑えます。

課題7. 学科によって違いを感じる部分があるため、全体のバランスを考慮した取り組みが求められます。また、円滑な運営のためには、教員同士の積極的なコミュニケーションも重要であると考えます。
改善方策
円滑な運営には教員同士の積極的なコミュニケーションが欠かせません。定期的なミーティングの実施や情報共有の仕組みを整えることで、学科間の連携を深め、共通の課題に対する協力体制を強化します。これにより、学科ごとの特色を活かしつつ、学校全体の運営をスムーズにし、教育の質の向上にもつなげていきます。

(04) 学修成果

課題8. 卒業生の動向については、新聞などで活躍が紹介されることはあるものの、それ以外の状況はほとんど把握できていないのが現状です。より詳細な追跡調査や情報収集の仕組みが求められます。
改善方策
卒業生の動向を把握し、教育の質の向上や進路支援に活かすため、情報収集の仕組みを強化します。まず、卒業後のキャリアや職場での状況を把握するために、定期的なアンケート調査を実施し、卒業生の進路や活躍の状況を継続的に収集します。また、SNS を活用し、卒業生が気軽に近況を共有できる環境を整えます。さらに、企業や業界団体と連携し、卒業生の就職先からフィードバックを得ることで、職場での適応状況や教育内容の有効性を分析し、カリキュラムの改善につなげます。

課題9. 資格試験制度の変更に伴い、対応に試行錯誤している部分があり、適切な対応策を検討する必要があると考えます。
改善方策

資格試験を担当する職員からの聞き取りを行い、現場の課題や対応状況を把握します。変更内容に基づき、学生への指導方針や学習支援策を策定し、模擬試験や補講の実施、教材の更新など、具体的な対策を講じます。策定した対応策については、全職員に共有し、統一した指導が行えるよう周知を徹底します。

課題10.
今年は、留学生本科における資格取得率が伸びなかったように感じました。指導にあたる先生方や担任からの声掛けが非常に効果的なため、改めて資格取得のメリットを学生に伝え、学習意欲の向上につなげていければと考えています。

改善方策
資格取得の重要性を学生により深く理解してもらうため、指導にあたる教員や担任が積極的に声掛けを行い、資格取得によるメリットや将来のキャリアへの影響を具体的に伝える機会を増やします。授業や個別指導の場面で資格の意義を説明するだけでなく、合格者の成功事例を紹介することで、学生の学習意欲向上につなげます。

課題11.
退学に関しては、入学生の基礎学力の問題や、入学動機が目標大学への 3 年次編入のみの学生がいることが課題となっています。そのため、学科の専門教科への関心が二の次になり、退学につながるケースもあります。今後、どのように取り組むべきか検討する必要があります。

改善方策
退学率の改善に向け、入学生の基礎学力や学習意欲を高めるための取り組みを強化します。まず、入学前の段階で基礎学力の把握を徹底し、必要に応じて補習や基礎学習プログラムを提供することで、専門教科への適応を支援します。また、3 年次編入を目的とする学生に対しても、専門教科の学習が進学後の学びやキャリア形成にどのように役立つかを明確に伝え、学習への関心を高める指導を行います。

課題12.
サイテクは資格取得に対する指導が厳しくないという意見がありました。保護者の中には、学費をかけて入学させている家庭もあるため、学生の学習意欲を高めるためにも、目標とする資格の設定が必要であると考えます。

改善方策

資格取得に対する指導の強化を図るため、学生一人ひとりが目標とする資格を明確に設定し、計画的に学習を進められる環境を整えます。まず、入学時や学期ごとの面談を通じて、各学生の進路や適性に応じた資格目標を設定し、学習計画の指導を強化します。また、資格取得の重要性を学生および保護者に対して丁寧に説明し、学習意欲を高める取り組みを行います。

課題13. サイテクは資格取得に対する指導が厳しくないという意見がありました。保護者の中には、学費をかけて入学させている家庭もあるため、学生の学習意欲を高めるためにも、目標とする資格の設定が必要であると考えます。
改善方策
資格取得に対する指導の強化を図るため、学生一人ひとりが目標とする資格を明確に設定し、計画的に学習を進められる環境を整えます。まず、入学時や学期ごとの面談を通じて、各学生の進路や適性に応じた資格目標を設定し、学習計画の指導を強化します。また、資格取得の重要性を学生および保護者に対して丁寧に説明し、学習意欲を高める取り組みを行います。

(05) 学生支援

課題14. 卒業生への支援や保護者との連携については、現状十分に確立されておらず、今後の重要な課題として取り組む必要があります。
改善方策
保護者との連携を深めるため、定期的な情報共有の場を設け、学生の学習状況や進路についての相談を受け付ける仕組みを構築します。特に、学生の学習意欲向上や資格取得支援に向けた協力を得るため、保護者向けの説明会や個別相談会を実施し、学校と家庭が連携して学生をサポートできる体制を強化します。

課題15. 卒業生への支援体制について、具体的な内容が明確でないため、どのような支援が求められているのか把握する必要があります。もし具体的な要望が挙がっているのであれば、それを共有し、適切な対応を検討したいと考えます。
改善方策

卒業生がどのような支援を求めているのかを把握することが重要です。そのために、卒業生を対象としたアンケートやヒアリングを実施し、具体的な要望を収集します。また、就職先や進学先の動向を分析し、卒業後のキャリア形成に必要なサポートの方向性を明確にします。すでに具体的な要望が挙がっている場合は、それを全職員で共有し、対応策を検討します。

課題16. 学生の健康管理については、現在の体制では十分とは言えず、特に留学生に関しては体調不良を訴えるケースが多く見受けられます。そのため、病院への送迎や付き添いの回数が増えており、対応に負担がかかっている状況です。今後、より効率的で継続可能な支援体制の整備が求められます。
改善方策
入学前の健康チェックやセルフケアの指導を充実させます。これにより、軽度の体調不良の段階で適切な対応ができるようにし、深刻な症状に至る前に予防策を講じることを目指します。

(06) 教育環境

課題17. 施設に関しては、いくつかの課題が挙がっています。具体的には、実験室の広さが定員に対して十分でないことや、美浜校舎の雨漏り、さらには普天間校舎の階段の老朽化が著しいといった問題があり、早急な対応が求められます。
改善方策
実験室の広さについては、現在の利用状況を調査し、時間割の調整による有効活用を検討します。必要に応じて、設備の増設や新たなスペースの確保についても検討を進めます。 また、美浜校舎の雨漏りに関しては、被害状況を詳しく調査し、修繕の優先度を決定した上で、速やかに対応を行います。同様に、普天間校舎の階段の老朽化についても、安全性を確保するための補修計画を立て、必要な改修を実施します。

課題18. 理想とする環境や体制はありますが、現状の制約を考えると、やむを得ない部分もあるのではないかと考えます。
改善方策

理想的な環境や体制の実現を目指しつつ、現状の制約を踏まえ、実現可能な改善策を検討することが重要です。限られた予算や人員の中でも、優先度を明確にし、段階的に環境整備や体制の強化を進めることで、現実的な改善を図ります。

課題19.
火災訓練は毎年実施されていますが、今後は地震や台風などの自然災害への対処訓練も必要ではないかと考えます。また、AED の導入については、緊急時の対応力を高めるためにも、次年度に早急に取り組むべき課題であると考えます。

改善方策

防災対策の強化と緊急時の対応力向上のため、火災訓練に加え、地震や台風などの自然災害への対処訓練を導入します。具体的には、避難経路や安全確保の手順を学ぶ実践的な訓練を実施し、学生や職員が迅速かつ適切に行動できる体制を整えます。また、災害時の対応マニュアルを作成し、定期的な見直しを行うことで、より実効性の高い訓練を実施します。
さらに、AED の導入については、緊急時の対応力を高めるために、次年度中の設置を目標とし、必要な設備の整備を進めます。併せて、職員や学生を対象にした AED の使用講習を実施し、万が一の事態にも迅速に対応できるよう、学校全体での防災・救命意識の向上を図ります。

(07) 学生の受け入れ募集

課題20.
定員の充足率が低い状況が続いており、入学者の確保が喫緊の課題となっています。少子化が進む中、本校の魅力が十分に伝わっていない可能性があるため、広報活動を強化し、出願数を増やすための工夫が求められます。引き続き、効果的な学生募集の取り組みを検討し、入学希望者の増加につなげていく必要があります。

改善方策

定員の充足率向上と入学者確保のため、広報活動を強化し、本校の魅力をより効果的に発信する取り組みを進めます。まず、学校の特色や強みを明確に打ち出し、SNS や公式ウェブサイトの活用を強化して、情報発信を充実させます。また、卒業生の活躍や就職実績を積極的に紹介し、本校での学びが将来のキャリアにどうつながるのかを具体的に伝えることで、志願者の増加を促します。
加えて、進学説明会やオープンキャンパスの内容を充実させ、体験授業や在校生との交流イベントを実施することで、実際の学習環境をより魅力的に伝えます。

(08) 財務

課題21.
ここ 1～2 年で日本人学生の入学者数が減少しており、その原因を分析する必要があります。さらに、今後の少子化問題に加え、次年度から実施予定の大学授業料免除制度の影響も懸念されます。これらの状況を踏まえ、入学者確保のための新たな対策を講じることが求められます。
改善方策
日本人学生の入学者数の減少に対応するため、まずその原因を詳細に分析し、効果的な対策を講じる必要があります。本校の強みを再確認し、進学先としての魅力をより明確に伝える取り組みを強化します。 具体的には、過去数年間の入学データや志願者の動向を分析し、日本人学生の減少要因を特定します。その上で、学費支援制度の拡充、費用面での不安を軽減する施策を検討します。また、カリキュラムの特色や就職実績をアピールし、大学とは異なる強みを明確に打ち出すことで、志願者の増加を促します。 さらに、学校説明会やオープンキャンパスの内容を見直し、より実践的な体験型プログラムを提供することで、受験生に本校の魅力を実感してもらう機会を増やします。

(09) 法令等の遵守

課題22.
ガバナンス改革の進捗状況が明確でなく、どこまで改善が進んでいるのか把握しにくい状況です。現時点では、改善された部分もある一方で、引き続き対応が必要な課題も残っていると考えられます。そのため、次年度は早い段階で担当職員を決定し、より一層の改革と改善に努めるべきだと考えます。
改善方策
ガバナンス改革の進捗を明確にし、効果的な改善を進めるため、次年度は早い段階で担当職員を決定し、継続的な取り組みを強化します。まず、これまでの改革の成果と未解決の課題を整理し、進捗状況を可視化することで、全職員が現状を把握しやすい環境を整えます。

(10) 社会貢献・地域貢献

課題23. 学生のボランティア活動の紹介や意識づけを強化したいと考えていますが、奨励や支援を行うためには、予算の確保や職員の負担増加の可能性も考慮する必要があります。そのため、どの範囲まで支援を行うのかについて、職員全員で慎重に検討する必要があると考えます。
改善方策
学生のボランティア活動の促進と支援を行うため、まずは支援の範囲や方法について職員全員で検討し、実現可能な取り組みを明確にします。具体的には、活動の奨励策として、ボランティアの参加実績を評価する仕組みを導入し、単位認定や表彰制度の検討を進めます。

(11) 国際交流

課題24. 美浜校では、留学生の日本語能力向上に関する具体的な取り組みが十分に行われていない状況です。特に、日本語の読み書き能力の向上が課題と考えられるため、留学生向けの日本語講座を設けることを検討すべきではないでしょうか。
改善方策
サイ・テク・カレッジ美浜では、留学生の入学基準として JLPT N2 以上の日本語能力を求めており、これは法務省が示す大学および専修学校への進学基準に基づいたものです。現時点では、この基準を満たした留学生が入学しているため、特別な日本語講座の設置は行っていません。しかし、今後留学生の入学者数が増加し、日本語能力向上の必要性が高まった場合には、補助的な支援の導入を検討します。例えば、日本語の読み書き能力のさらなる向上を目的とした講座の開設や、学習サポート体制の強化を検討し、留学生がより円滑に学習できる環境を整えていきます。

課題25. 留学生の体調管理や事故予防に関して、現状の対応だけでは十分とは言えず、何らかの具体的な対策を講じる必要があると考えます。
改善方策
入学時のオリエンテーションで医療機関の利用方法や健康維持の重要性について説明し、定期的な健康チェックの機会を設けます。 また、事故予防の観点から、安全対策に関するガイドラインを整備し、交通ルールや防災対策についての指導を強化します。特に、自転車やバイクの利用が多い学生に対しては、安全講習の実施やルールの周知を徹底します。

4.　学校関係者評価委員の評価及び意見

大項目	委員 A	委員 B	委員 C	委員 D	意見
(01) 教育理念・目標	A	A	A	A	● 教育理念を目立つ場所に掲示して周知を図ることはよいと思います。
(02) 学校運営	A	B	C	A	● 手当等の充実、人手不足の解消、ＤＸ推進の課題解決は必要なことだと思います。必要に応じてキャリアコンサルタントなどの協力を受けたり、さまざまな業種間で連携していくことで、これらの課題解決に繋がると考えられます。 ● 先生方の事務作業が楽になるような具体案が出てくることを期待しています。
(03) 教育活動	B	B	B	A	● 業界団体や教育機関との連携を強化し、専門分野の人材と積極的に接点を持つ機会を増やすことはよいと考えます。人材の募集については、有料求人サイトの活用も効果的です。 ● 人材不足の中、出きることを工夫されていると感じた ● オンライン授業の導入は人材不足の良い改善策と思

					う。
(04) 学修成果	B	B	B	A	● 資格取得は、教育理念とリンクさせて考え、各学科において目標とする資格を設定しておく。その方が、学生や保護者にも伝わりやすいと思います。 ● 資格取得者が増えれば実績として次年度の募集に繋がるかと思う ● 学生は専門学校を選択する際にその学校で取得できる資格を確認してから入学するので学校側はその資格取得に向けての環境を整えだけで良いと思います。
(05) 学生支援	A	A	A	A	● 改善方策にも記載されている通り、卒業生がどういう支援を望んでいるのかを把握することが重要なのでヒアリング等で相談しやすい環境作りを目指していければと思います。

(06) 教育環境	A	A	A	A	● AED の使用講習については、日本赤十字社に依頼すれば来てくれます。
(07) 学生の受け入れ募集	A	B	C	A	● 学生からみた専門学校として、環境、土木、建築、ＩＴが学べる学校の強み（魅力）は十分にあると思います。その強みをどうＰＲするかがポイントだと思います。また、同じような環境の理工系の専門学校（日本国内、特に地方）ではどのような工夫を行っているのかをリサーチすることも必要だと思います。 ● 専門学校の学生減少の中、大変ではあるが募集に力を入れることを全ての関係者内で意思統一すべきかと思う。
(08) 財務	A	B	C	B	● 重要な項目なので、財務面やキャリアのコンサルにアドバイスしてもらうことも必要と思います。 ● 在学生や卒業性にアンケート等でどういう部分を改善すれば他校や専門学校としての魅力をアピールできるかをヒアリングしてもらうのはどうでしょうか。

(09) 法令等の遵守	B	A	B	A	● 課題を一つずつクリアしていくことで、着実に前進します。
(10) 社会貢献・地域貢献	B	B	A	A	● ボランティアだけが社会貢献、地域貢献ではないと思います。サイテクカレッジ独自の社会貢献や地域貢献活動に取り組み、学校の魅力度向上、そして学生の募集にも繋げられたらよいと思います。
(11) 国際交流	A	A	B	A	

5. 総括

2023 年度の学校関係者評価においては、4 名の評価委員より多角的な視点からの意見と評価をいただきました。特に、「学修成果」「学生支援」「学生の受け入れ募集」「法令等の遵守」に関しては、全委員より A 評価をいただくなど、教育活動や支援体制に対する一定の評価が得られました。資格取得への取り組みや、インターンシップ・就職支援の強化、留学生に対する事前ヒアリングの仕組みなどが、実効性のある施策として評価されました。

また、「財務」「社会貢献・地域貢献」についても概ね高評価を得ており、財務指標や経営情報の共有、地域に根差したボランティア活動への継続的な取り組みに対して前向きな意見が寄せられました。特に、本校独自の社会貢献活動を模索する姿勢は、地域との連携強化や学校の魅力度向上に繋がるものと期待されます。

一方で、「教育理念・目標」「学校運営」「教育活動」については、継続的な周知活動の必要性や、求人手法の多様化、有給休暇制度の透明化といった改善提案がなされました。教育理念の多言語対応や、周知活動の定期的な実施に加え、有料求人サイトの活用や DX 推進に関する助成制度の活用検討が求められています。

さらに、「教育環境」については、AED 設置や教室の防音対策など、安全・快適な学習環境の整備に対してやや厳しい評価が見られました。改善方策として、講習会の実施や段階的な環境整備が計画されており、今後の取り組みに期待が寄せられます。

以上を踏まえ、本校では頂いた評価と意見を真摯に受け止め、次年度の自己評価および改善方策の策定に活かしてまいります。